



JARMeC  
Japan Animal Referral Medical Center

日本動物高度医療センター

# 事業計画及び成長可能性に関する事項

株式会社日本動物高度医療センター（東証グロース：6039）

2023年6月26日



1. 会社概要
2. 事業概要
3. 業績・財務概要
4. 市場環境
5. 成長戦略
6. リスク情報





**JARMeC**  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

# 1. 会社概要



# 会社概要

会社名	株式会社 日本動物高度医療センター
	Japan Animal Referral Medical Center : JARMeC
主要な事業内容	犬・猫向けの高度医療（二次診療）を行う動物病院
所在地	川崎本院 : 神奈川県川崎市高津区久地 2-5-8 東京病院 : 東京都足立区一ツ家 3-1-7 名古屋病院 : 愛知県名古屋市天白区鴻の巣 1-602 大阪病院 : 大阪府箕面市船場西 3-14-7
設立年月日	2005年9月26日
資本金	791百万円
代表取締役社長	平尾 秀博
従業員数	284名（非常勤36名を含む）※グループ全体（2023年4月末現在）
関連会社	株式会社 キャミック （高度医療機器を用いた動物の画像診断センター運営） テルコム株式会社 （動物用酸素濃縮器等の製造・販売・貸与）



JARMeCは動物医療業界において、

「臨床や教育の現場で活躍する**人材教育**」の環境を整え、

「動物医療技術の向上を担う**臨床研究**」にチャレンジし、

「教育、研究の実践の場としての**高度医療**（二次診療）」を  
地域の連携病院と協力して提供する

以上により広く社会に貢献することを理念としています。

# 沿革

- 2005年9月 ○ 株式会社日本動物高度医療センターを設立
- 2007年6月 ○ 川崎本院を神奈川県川崎市高津区に開業
- 2009年3月 ○ 「小動物臨床研究診療施設」として民間で初めて農林水産大臣の指定を受ける
- 2011年12月 ○ 名古屋病院を愛知県名古屋市天白区に開業
- 2014年1月 ○ 株式会社キャミックを子会社化
- 2015年3月 ○ 東京証券取引所マザーズ市場に上場（動物病院として初の上場会社）
- 2017年6月 ○ キャミックひがし東京を東京都江戸川区に移転開業
- 2018年1月 ○ 東京病院を東京都足立区に開業
- 2022年2月 ○ キャミック城北を埼玉県さいたま市南区に移転開業
- 2022年3月 ○ テルコム株式会社を子会社化
- 2022年4月 ○ 東京証券取引所グロース市場に移行
- 2023年6月 ○ 大阪病院を大阪府箕面市に開業



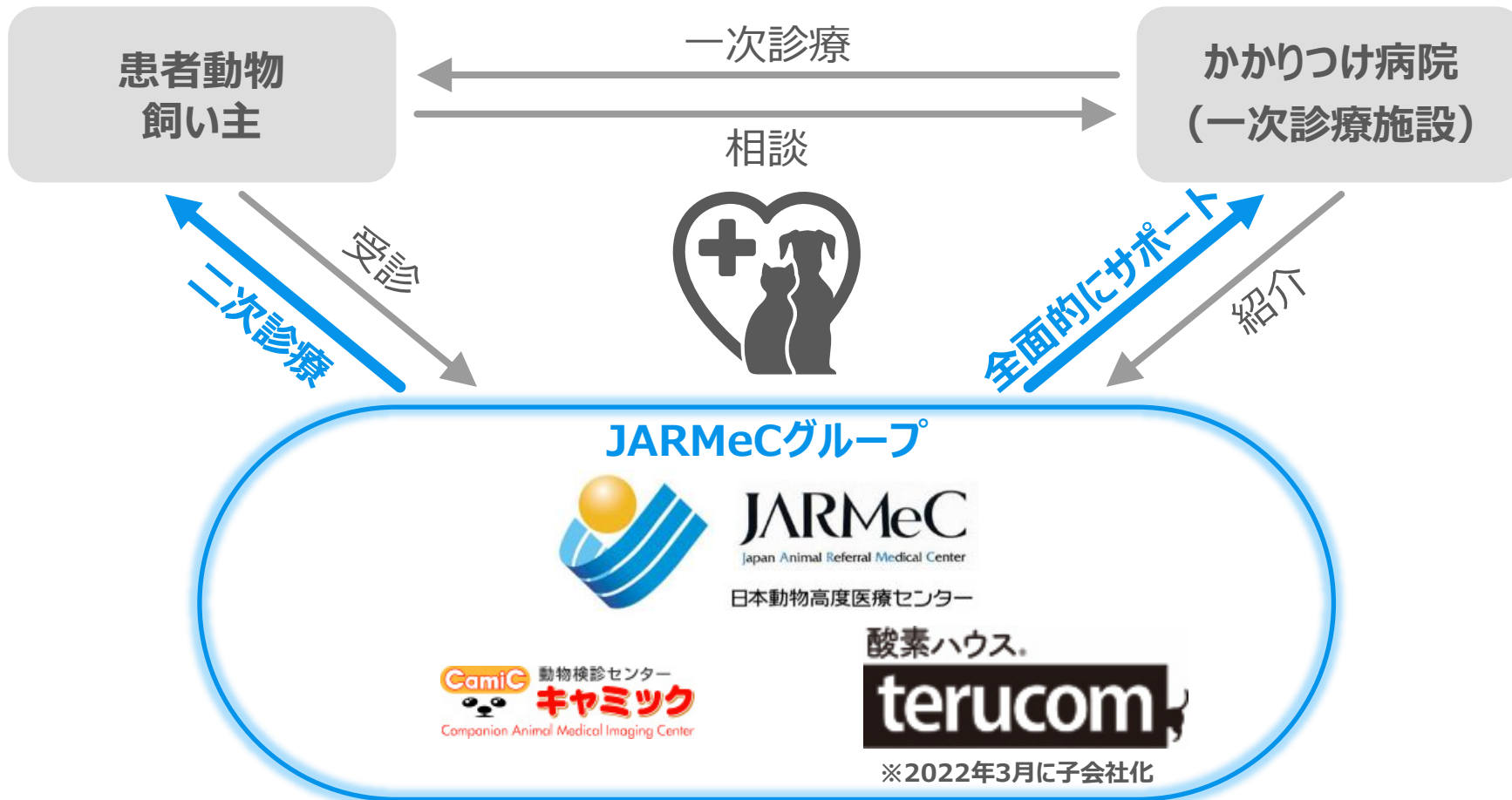
JARMeC  
Japan Animal Referral Medical Center

日本動物高度医療センター

## 2. 事業概要



## 当社のビジネスモデル



- ✓ 「ペットに家族と同じように高度な医療を受けさせたい」というニーズ
- ✓ 二次診療を中心とした事業により、一次診療施設を全面的にサポート







# JARMeC各拠点



JARMeC 東京 (東京都足立区)



JARMeC 名古屋 (名古屋市天白区)

# JARMeC大阪 / 6月1日より診療開始



## 所在地

大阪府箕面市船場西3-14-7

## 診療科

- 循環器・呼吸器科
- 泌尿器生殖器・消化器科
- 脳神経・整形科
- 腫瘍科
- 放射線・画像診断科
- 麻酔科

## 主要な医療機器

- MRI
- CT
- 放射線治療器（2024年導入予定）

# JARMeCグループ拠点



CAMIC ひがし東京  
(東京都江戸川区)



CAMIC 城南  
(東京都世田谷区)



CAMIC 城北  
(さいたま市南区)

## 専門診療科による高度医療

▶ 循環器・呼吸器科 Cardiology / Respiratory Medicine	
▶ 泌尿器生殖器・消化器科 Gastroenterology / Urology	
▶ 腫瘍科 Oncology	
▶ 脳神経・整形科 Neurology / Orthopedics	
▶ 眼科 Ophthalmology	
▶ 麻酔科 Anesthesiology	
▶ 放射線・画像診断科 Radiology & Imagings	

- 特定の診療分野に特化し実際の診療を行う。
- 動物の生命もしくはは生活の質に大きくかかわる分野を広くカバーする診療科を揃える。
- 併発する分野の疾患や鑑別が困難な症状の疾患に対して、複数の診療科で診療を実施。

例) 心疾患を抱えた高齢動物の腫瘍性疾患

腫瘍科+循環器/呼吸器科

発作症例 (てんかん発作と不整脈発作の鑑別)

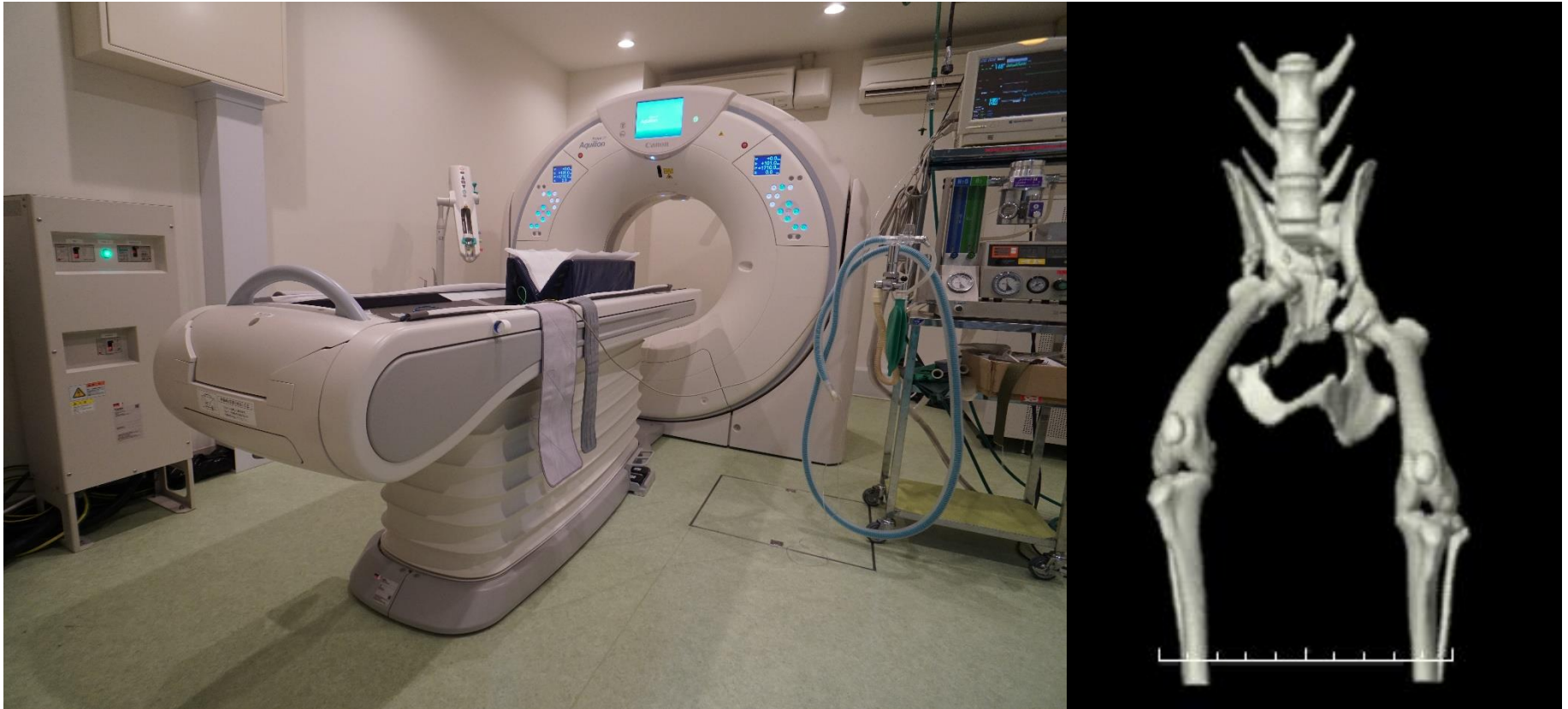
脳神経科+循環器科

- 診断の肝となる画像診断や検査・手術に必須となる麻酔を担当し、安全かつ確実に診断できるように、上記診療科をサポートする。



高度かつ総合的な獣医療を提供

# 主要な設備（1）CT撮影装置



断層画像や3D像を撮影できるCT装置を用いることで、一般の医療機器では見つけることが難しい病気の診断や治療計画が可能となり、高度な動物医療の実践が可能となる。

## 主要な設備（2）MRI撮像装置



超伝導型の高磁場装置を用いることにより、体の小さな犬猫の脳や脊髄の病変を高解像度で撮像することができ、精度の高い診断につなげることができる。



# 主要な設備（3） 各種手術室



## 第1

心臓血管外科  
脳神経外科・整形外科

## 第2

腫瘍科

## 第3

眼科

## 第5・第6

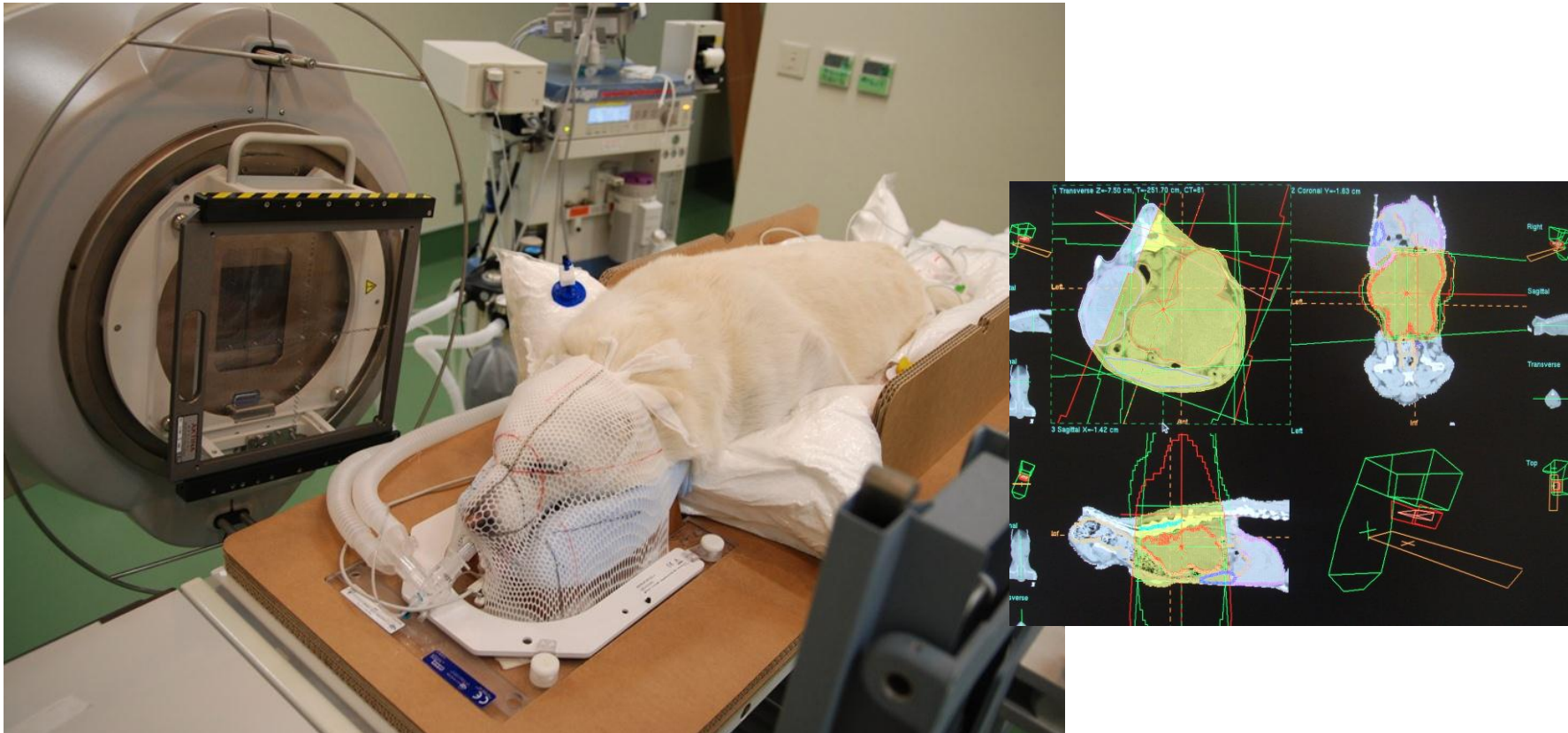
軟部外科一般

## 第7

歯科口腔外科・内視鏡

心臓手術や開胸手術、開頭手術や神経系手術、各種開腹手術や腫瘍摘出術、低侵襲手術（腹腔鏡手術・カテーテル治療）など、特殊な手術や難易度の高い手術を実施。

# 主要な設備（４）放射線療法装置



外科手術で切除が困難で、抗がん剤が効きにくい“がん”に対しても、放射線を照射しがん細胞を殺滅することができる。  
体の小さな犬猫のがんに対しても、精密に放射線を照射できる装置を備える。



当社の理念に賛同いただいた動物病院様には「**連携病院の証**」を進呈し、

① [JARMeCグループのウェブサイト](#)に「[連携動物病院情報](#)」を掲載

② [JARMeCから「学術情報・セミナー情報等」](#)を配信

③ [ご紹介いただいた症例について、JARMeCにおける「診療・手術」の見学受入](#)  
等のサービスを実施。

# 連携病院数

連携 **4,262** / 全国 **12,616** 病院

(2023年5月末時点)

- JARMeC
- 大学病院

**中国 : 62**

- 岡山県 : 9
- 広島県 : 34
- 山口県 : 16
- 鳥取県 : 1
- 島根県 : 2

**九州・沖縄 : 142**

- 福岡県 : 53
- 佐賀県 : 7
- 長崎県 : 17
- 熊本県 : 14
- 大分県 : 11
- 宮崎県 : 9
- 鹿児島県 : 18
- 沖縄県 : 13

**北陸 : 46**

- 石川県 : 22
- 富山県 : 12
- 福井県 : 12

**甲信越 : 124**

- 山梨県 : 20
- 長野県 : 62
- 新潟県 : 42

**近畿 : 354**

- 大阪府 : 151
- 兵庫県 : 98
- 京都府 : 46
- 奈良県 : 16
- 滋賀県 : 31
- 和歌山県 : 12

**四国 : 31**

- 愛媛県 : 10
- 高知県 : 9
- 香川県 : 11
- 徳島県 : 1

**関東 : 2,628**

- 東京都 : 957
- 神奈川県 : 686
- 千葉県 : 393
- 埼玉県 : 305
- 茨城県 : 117
- 栃木県 : 90
- 群馬県 : 80

**東海 : 660**

- 静岡県 : 157
- 愛知県 : 369
- 三重県 : 67
- 岐阜県 : 67

**東北 : 151**

- 青森県 : 12
- 岩手県 : 19
- 宮城県 : 35
- 秋田県 : 8
- 山形県 : 25
- 福島県 : 52

**北海道 : 64**

- 北海道 : 64



**JARMeC**  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

### 3. 業績・財務概要



# 2023年3月期 決算概要

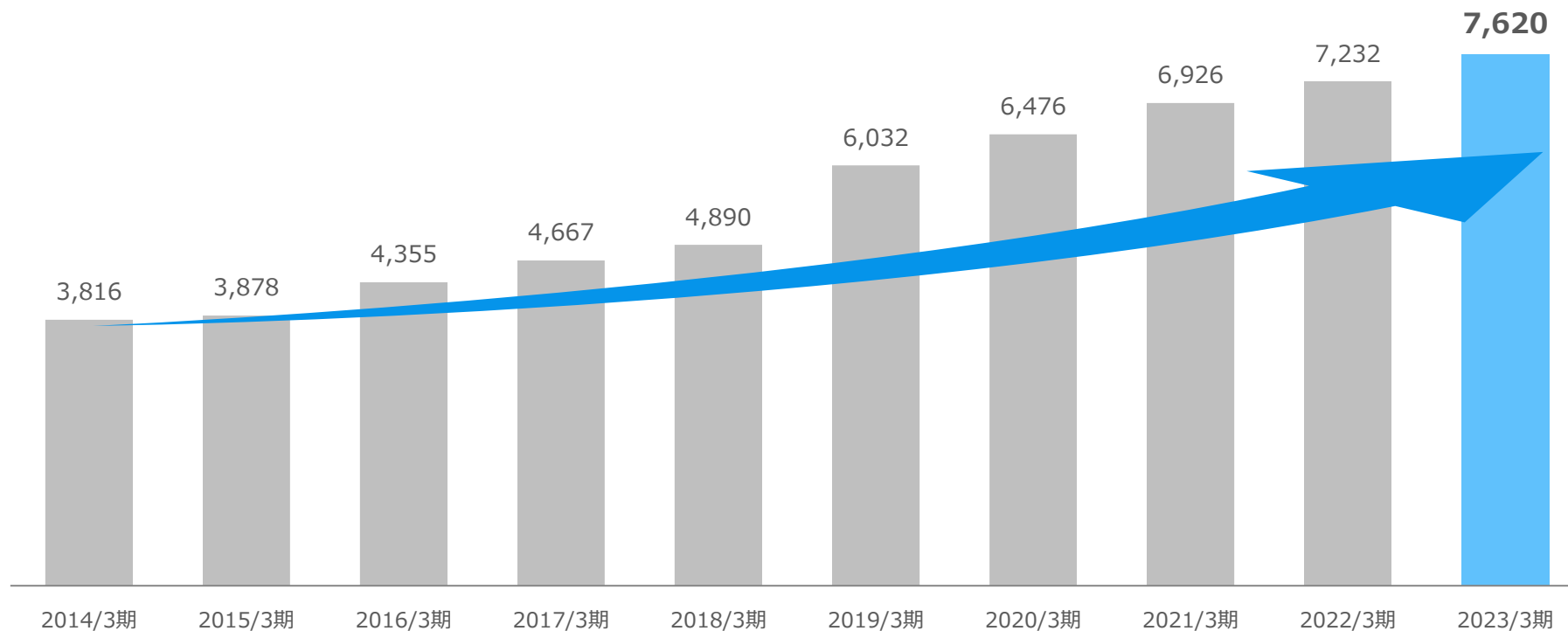
- 売上高、営業利益ともに前年を大きく上回り、過去最高を更新
- 初診件数も過去最高を更新

(百万円)	2022/3期		2023/3期				
	実績	構成比	実績	構成比	前年比 (金額・比率)		通期計画
売上高	2,979	100%	<b>3,872</b>	<b>100%</b>	+893	30.0%	3,860
二次診療サービス	2,434	81.7%	<b>2,594</b>	<b>67.0%</b>	+160	+6.6%	-
画像診断サービス	512	17.2%	<b>472</b>	<b>12.2%</b>	▲40	▲7.8%	-
健康管理機器レンタル・販売サービス	-	-	<b>774</b>	<b>20.0%</b>	-	-	-
営業利益	439	14.7%	<b>580</b>	<b>15.0%</b>	+141	+32.1%	535
経常利益	438	14.7%	<b>534</b>	<b>13.8%</b>	+96	+21.9%	540
親会社株式に帰属する 四半期純利益	286	9.6%	<b>380</b>	<b>9.8%</b>	+94	+32.9%	365
1株当たり 当期純利益	120.9円		<b>156.3円</b>		+35.4円	+29.3%	156.8円
初診件数	7,232件		<b>7,620件</b>		+388件	+5.4%	7,450件

# 事業KPI：初診件数（紹介数）の推移

- 既存病院の成長、新規病院の開院により、初診件数は毎年着実に増加

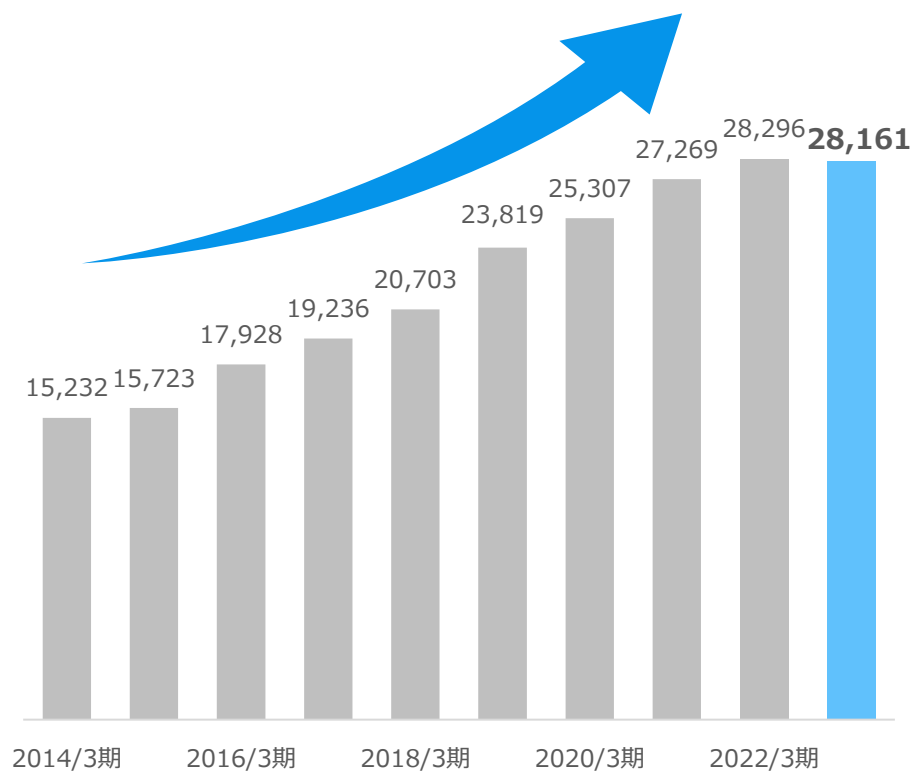
## 初診件数 7,620件



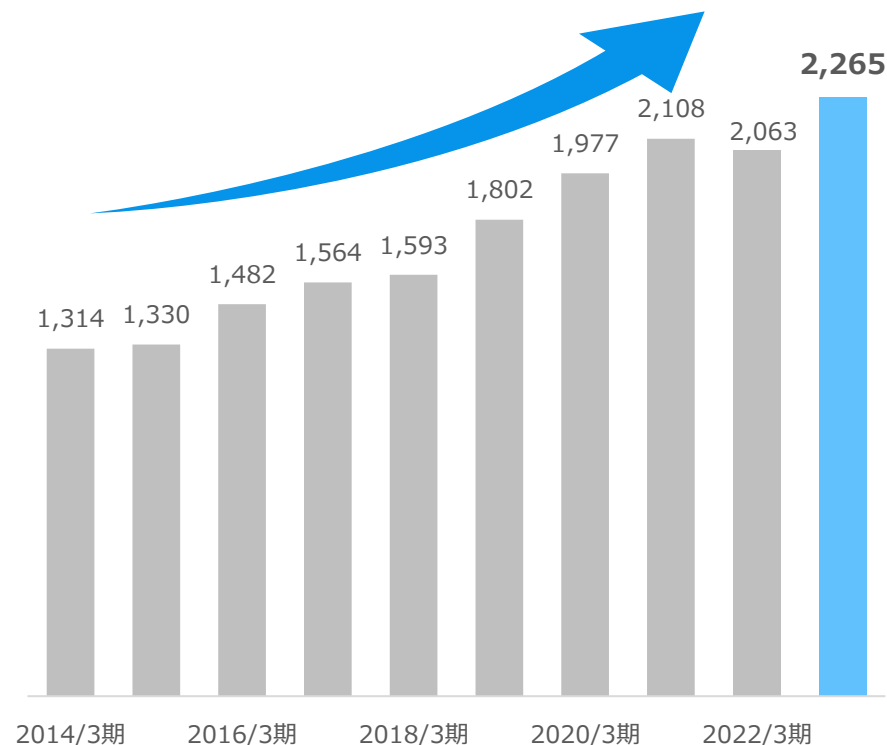
# 事業KPI：総診療件数、手術件数の推移

- 総診療件数はわずかに減少
- 手術件数は過去最高

総診療件数の推移



手術件数の推移



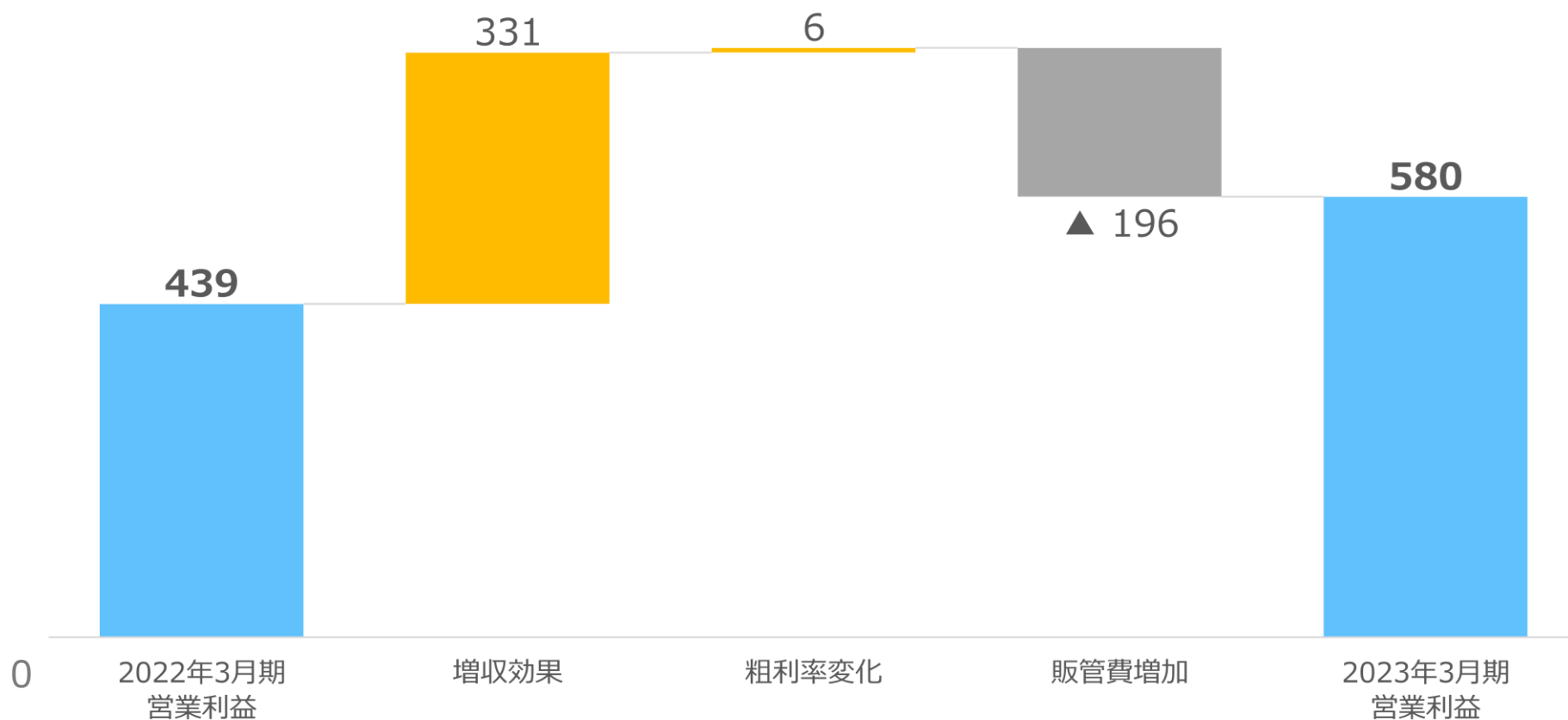
注：総診療件数は初診と再診の合計数



# 営業利益増減要因

- 人的資本には積極的に投資
- 増収効果により前期比1億41百万円増益

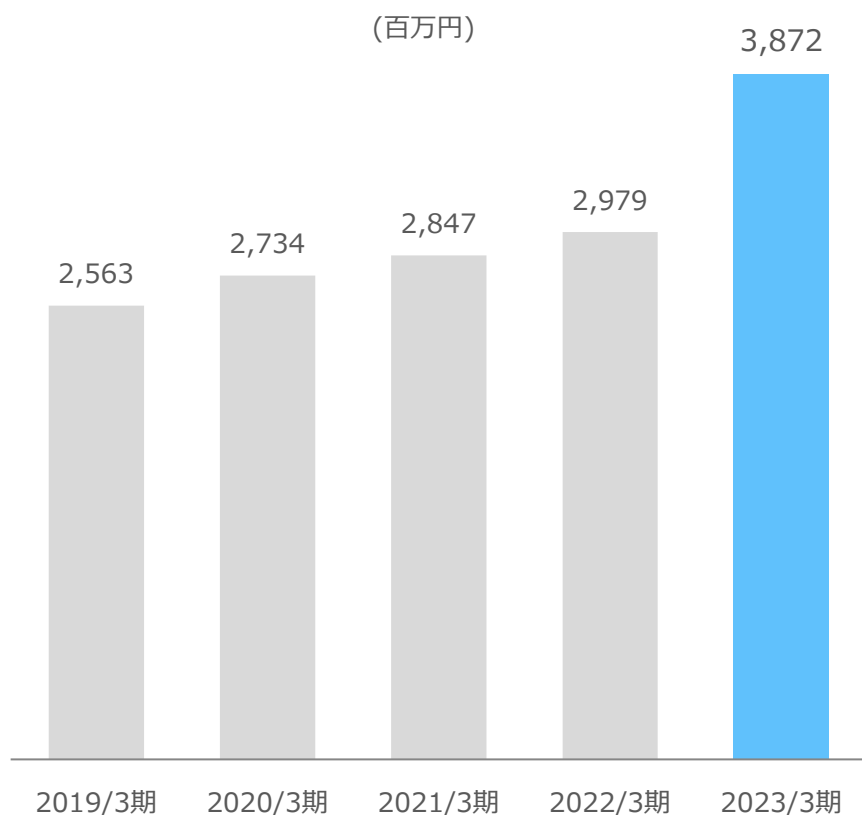
(百万円)



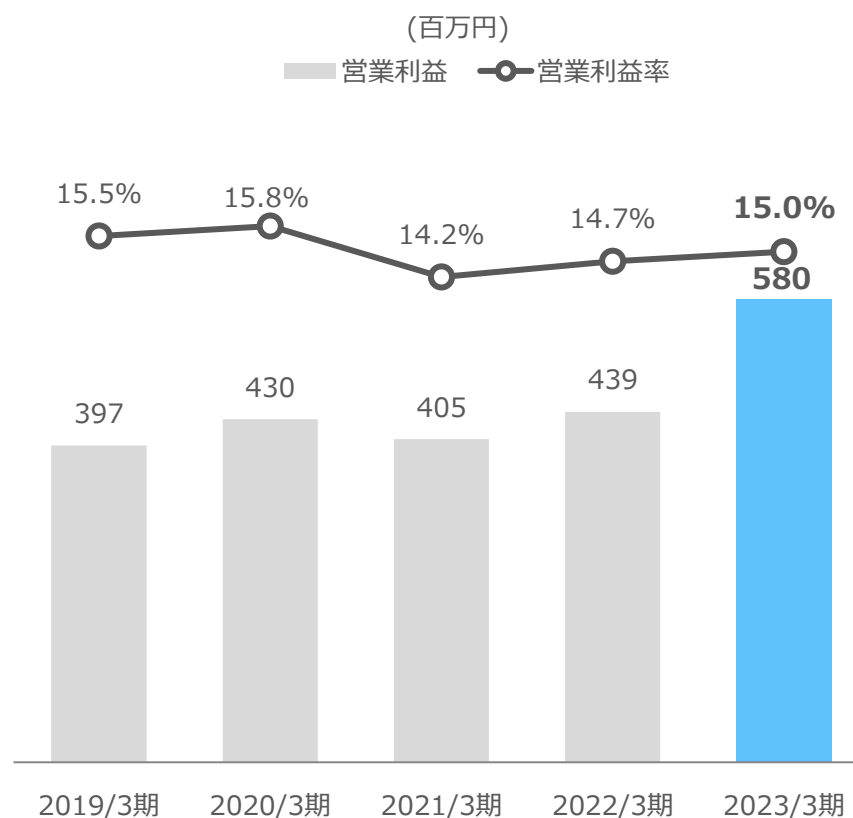
# 業績推移

- 売上高は、前期比30.0%増収の38億72百万円となり、過去最高売上を更新
- 営業利益は、同32.2%増益の5億80百万円となり、過去最高益を更新。営業利益率は改善

売上高の状況



営業利益・営業利益率の状況



# バランスシート状況

- 大阪病院開院に伴いバランスシートは拡大
- 2022年12月に第三者割当増資811百万円を実施（成長資金の獲得・財務健全性の強化が目的）  
⇒自己資本比率は35.3%から43.2%へ改善

(百万円)	2022/3期	2023/3期	前期末比
流動資産	1,539	<b>2,396</b>	+857
現預金	1,068	<b>1,916</b>	+848
売掛金	228	<b>263</b>	+35
商品	119	<b>95</b>	▲24
固定資産	5,567	<b>6,182</b>	+615
有形固定資産	4,709	<b>5,333</b>	+624
無形固定資産	665	<b>608</b>	▲57
総資産	7,107	<b>8,578</b>	+1,471
負債	4,597	<b>4,872</b>	+275
有利子負債	3,921	<b>3,975</b>	+54
純資産（株主資本）	2,509	<b>3,706</b>	+1,197
自己株式	▲186	<b>▲171</b>	+15
負債純資産合計	7,107	<b>8,578</b>	+1,471

増資・利益計上により現預金は増加

有利子負債依存度は55.1%から46.3%へ低下

自己資本比率は35.3%から43.2%へ上昇

# キャッシュフローの状況

- 営業CFは、増益に伴い前年比2億53百万円増加
- フリーCFは、26百万円

(百万円)	2022/3期	2023/3期	前年比	主な要因
営業CF	557	<b>810</b>	+253	
税金等調整前 当期純利益	423	<b>533</b>	+110	・ 営業利益増益
減価償却費	241	<b>391</b>	+150	・ テルコム買収に伴い減価償却費が増加
投資CF	▲1,425	<b>▲784</b>	+641	
有形固定資産取得	▲601	<b>▲728</b>	▲127	・ 大阪開院に伴う有形固定資産取得
FCF*	▲868	<b>26</b>	+894	
財務CF	722	<b>820</b>	+98	・ 増資によるもの
現金同等物の期末残高	968	<b>1,816</b>	+848	

\*FCF（フリー・キャッシュフロー）＝営業CF+投資CF

# 2024年3月期の見通し

- 大阪病院開院により売上高は増収見込み
- 開業に伴うコスト増もあり利益は横ばい

(百万円)	2023/3期		2024/3期			
	実績	構成比	通期計画	構成比	前期比	
売上高	3,872	100.0%	<b>4,140</b>	100.0%	+268	+6.9%
営業利益	580	15.0%	<b>555</b>	13.4%	▲25	▲4.4%
経常利益	534	13.8%	<b>565</b>	13.6%	+31	+5.8%
親会社株主帰属 当期純利益	380	9.8%	<b>385</b>	9.3%	+5	+1.1%
初診件数	7,620件	—	<b>8,400件</b>	—	+780件	+10.2%

# 株主還元施策：初配当を実施予定

## ■ 2024年3月期 期末配当を予想

2024年3月期 期末配当

初配当

1株当たり配当金

配当性向

期末 **20円**

**14.2%**

今後の利益還元策について

**配当性向10～20%を基本方針**

事業拡大のための投資と  
資本効率向上の最適なバランスを考慮

**自己株式の取得**

1株当たりの株主価値と  
ROEの向上を目的として機動的に実施



**JARMeC**  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

## 4. 市場環境

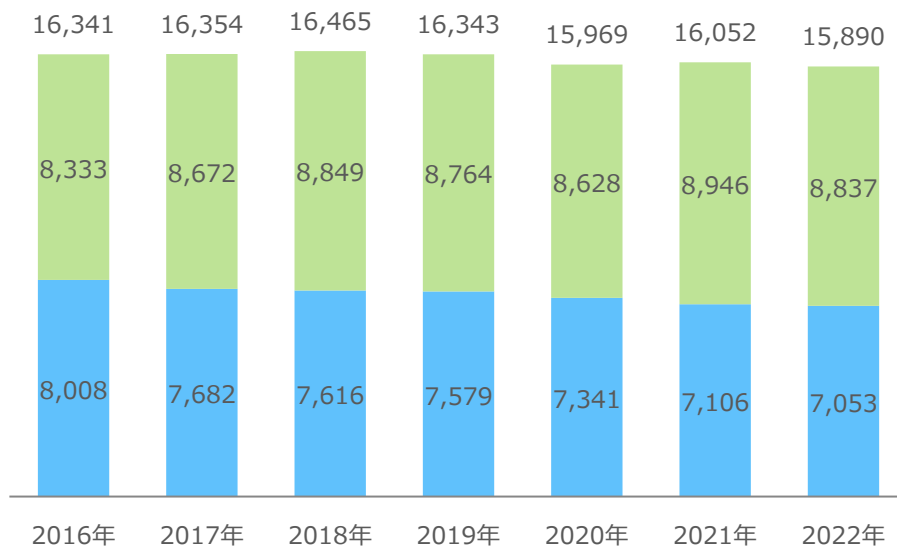


# 業界環境：犬猫飼育頭数は横ばい傾向が続く

- 2022年の犬猫飼育頭数は横ばいであったが、「新規犬飼育頭数」は増加

## 犬猫飼育頭数

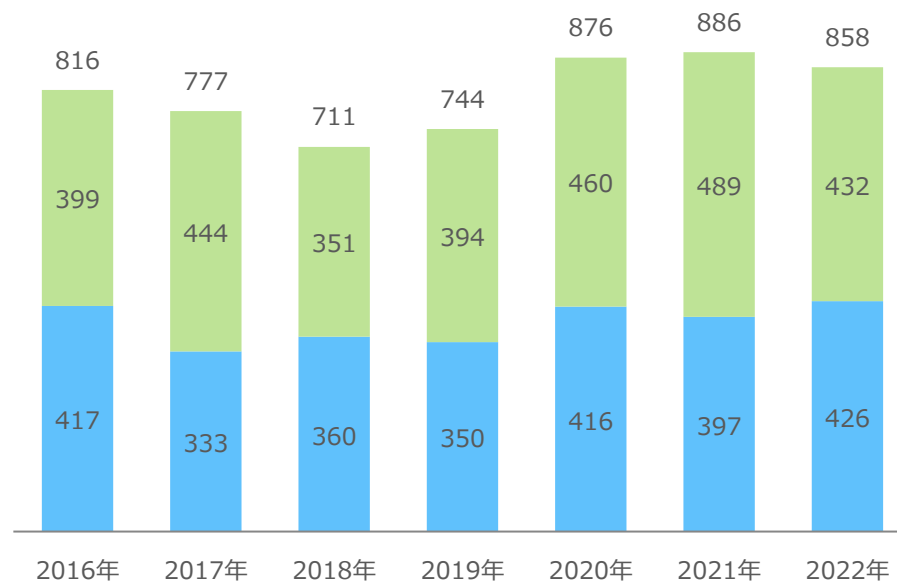
■ 犬飼育頭数 ■ 猫飼育頭数（千頭）



## 新規犬猫飼育頭数\*

\*統計、調査データ算出の1年前（1年以内も含）から飼い始めた人を新規飼育者とし、新規飼育者に飼われ始めた犬猫の頭数

■ 新規犬飼育頭数 ■ 新規猫飼育頭数（千頭）



出所：ペットフード協会「令和4年 全国犬猫飼育実態調査」

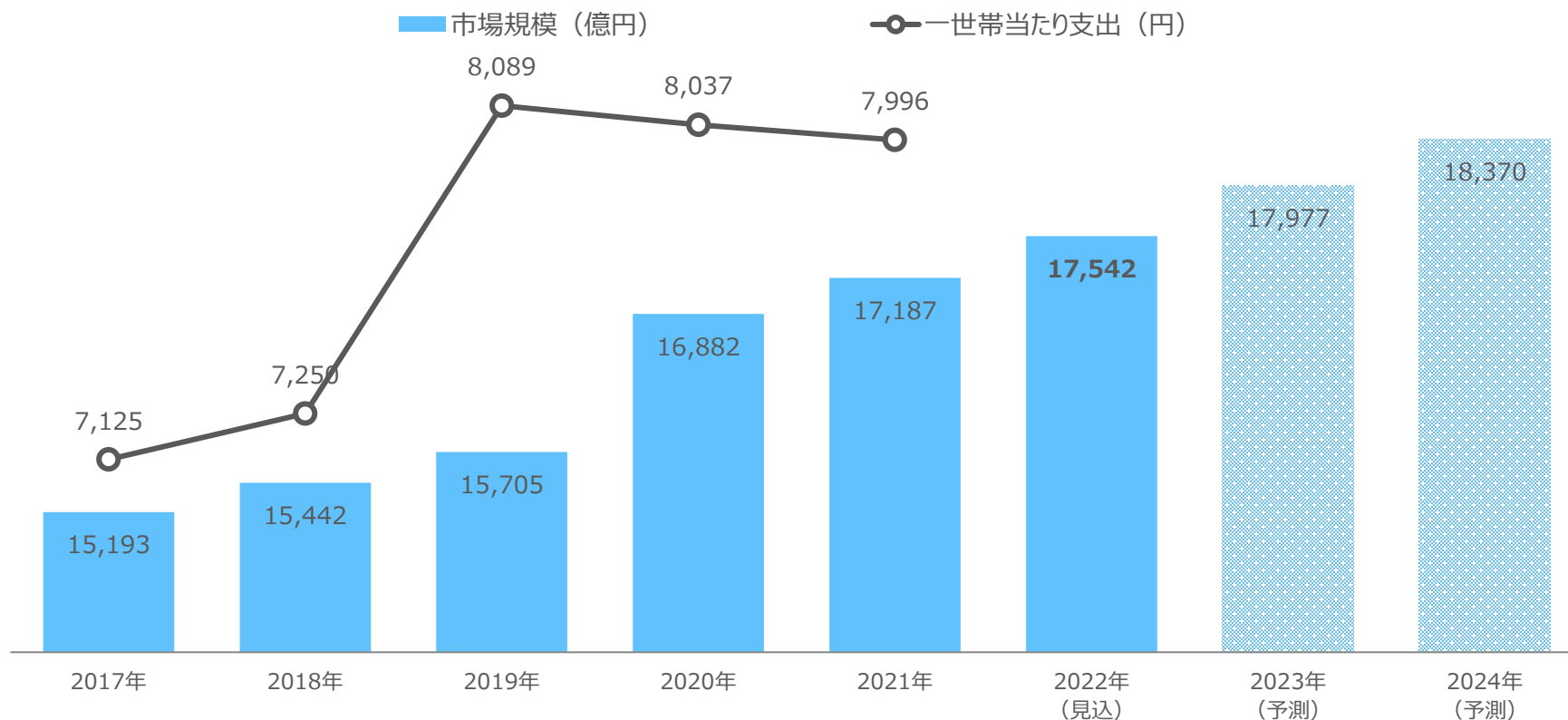


# 順調に拡大するペット関連市場

- 人口減少や少子高齢化が懸念される一方、ペットの家族化で動物医療に対する多様化・高度化要請は増加
- ペット医療やペット保険等ペットビジネスの付加価値化、裾野が拡大し、ペット関連総市場規模は年々拡大傾向

## ペット関連総市場規模\*と一世帯当たり動物病院支出額

\*ペット関連総市場：ペットビジネスをフード市場、用品市場、生体市場、その他（ペット周辺サービス市場）として捉えた際のペットビジネス市場全体



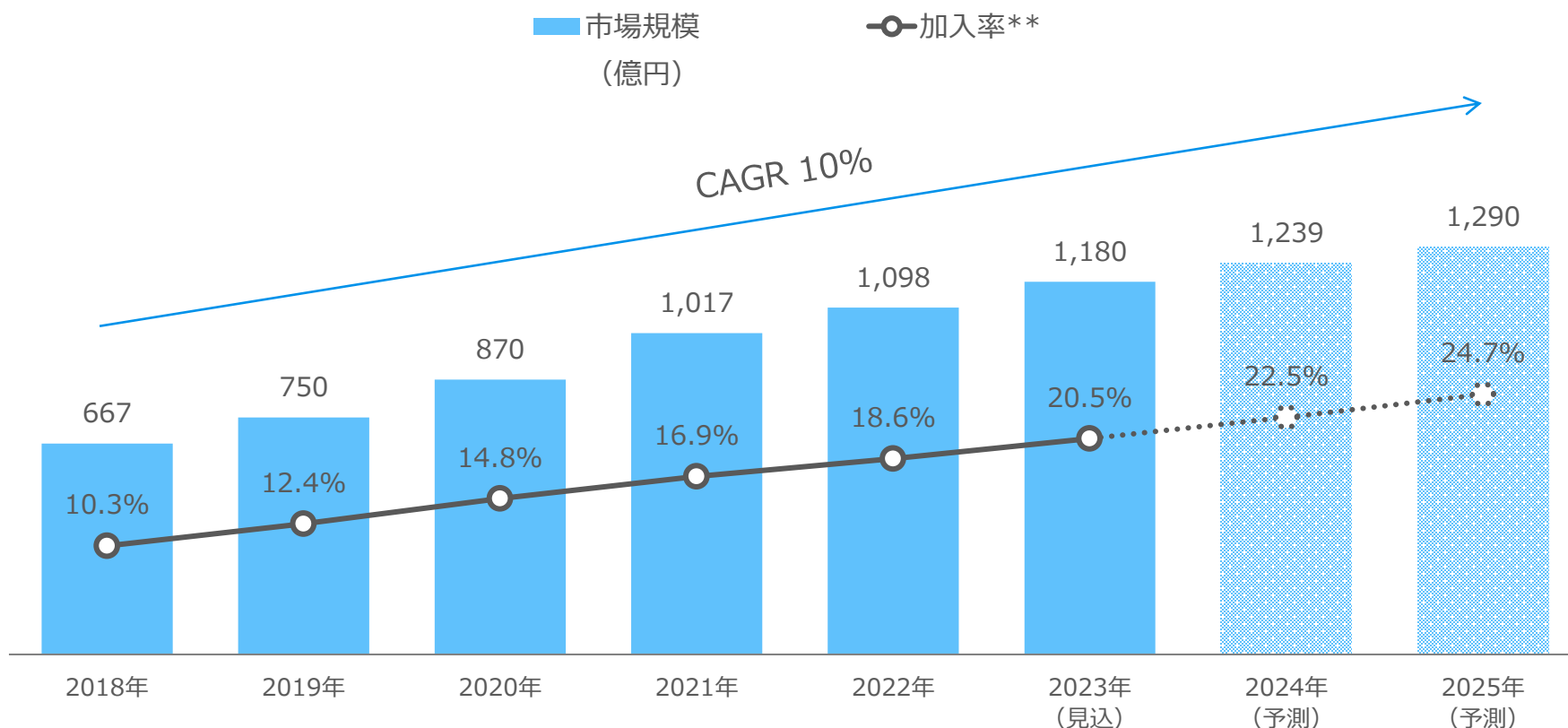
出所：矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」、総務省「家計調査」

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

# ペット保険市場は確実に成長（1）

- ペット保険の市場規模は年平均10%拡大の見通し
- 加入率は年々高くなっているも、欧米諸国\*に比べると低く、今後の市場拡大の余地は大きい
- ペットへの健康意識の高まりなど、ペット保険により高額な治療費を払う飼い主が増加すると想定

ペット保険市場規模と加入率



\*約100年のペット保険の歴史があるスウェーデンでは加入率50%、約70年の歴史があるイギリスでは25%程度の加入率

\*\*犬猫飼育頭数およびペット保険契約件数を元に算出

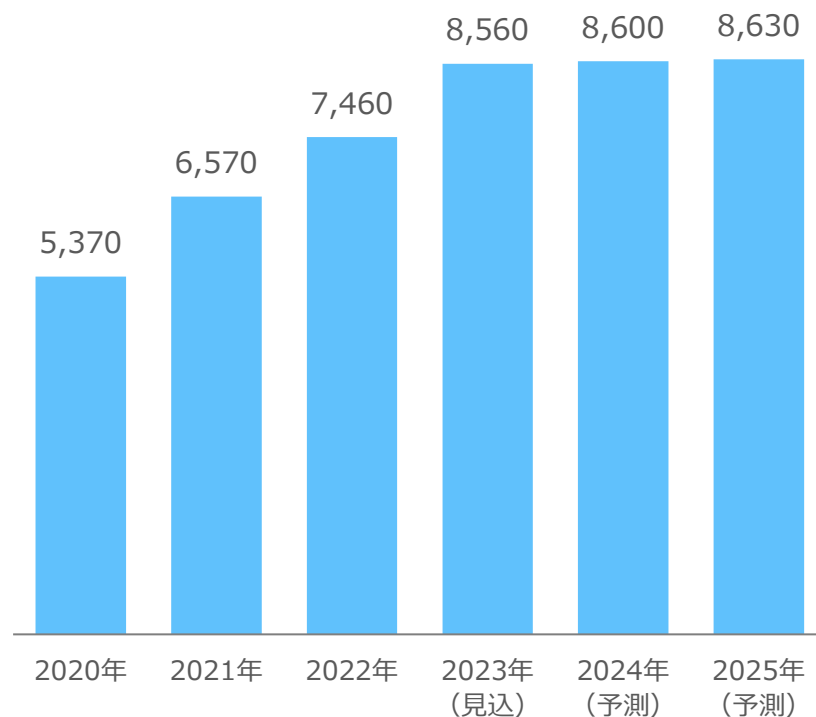
出所：富士経済「2023ペット関連市場マーケティング総覧」  
矢野経済研究所「ペットビジネスマーケティング総覧2022年版」  
(注) 一部企業の見直しに伴いデータを遡って修正

Copyright© JARMeC All Right Reserved.

# ペット保険市場は確実に成長（2）

- CAGRは低下（13.5%→10.0%）も、市場の注目度は高く、登録代理店数は増加傾向
- 新規参入や大手企業による資本提携により、ペット保険各社は資金力、営業力を強化
- これまで開拓できていなかった層へのアプローチも期待され、市場は一層拡大する見込み

ペット保険市場 登録代理店数



ペット保険市場 直近のトピックス

社名	トピックス
アイペット損害保険	2023年1月、第一生命ホールディングスが親会社のアイペットホールディングスを子会社化
楽天損害保険	2022年、楽天少額短期保険から契約移転することで市場に参入。販売機会増加の見込み
FPC	2023年1月、アイフルが完全子会社化。オンラインチャネルでの積み上げ増加が期待

出所：富士経済「2023ペット関連市場マーケティング総覧」

# 当社の特徴と競合との比較

病院の区分		獣医科大学病院	単科二次診療所
休診日	年中無休	土日祝・夏季・年末年始休業	365日営業が難しい
診療科数	11	10~19	1
競合の状況	以下に記載	学生の教育・研究に重点 急患対応が難しい	総合診断の対応が難しい 大型投資が難しい

## JARMeCが提供する高品質なサービス

### 高度医療機器

獣医科大学病院と同等あるいは以上の設備を揃える

### 柔軟な受入対応

年中無休、予約の速さ（原則当日または翌日の受入を目指す）、  
簡便さ（紹介医の電話による受入が可能）は好評

### チームによる診療体制

専門診療科において複数の獣医師・スタッフによるチーム医療を実践。  
必要に応じて複数の診療科が協力して対応



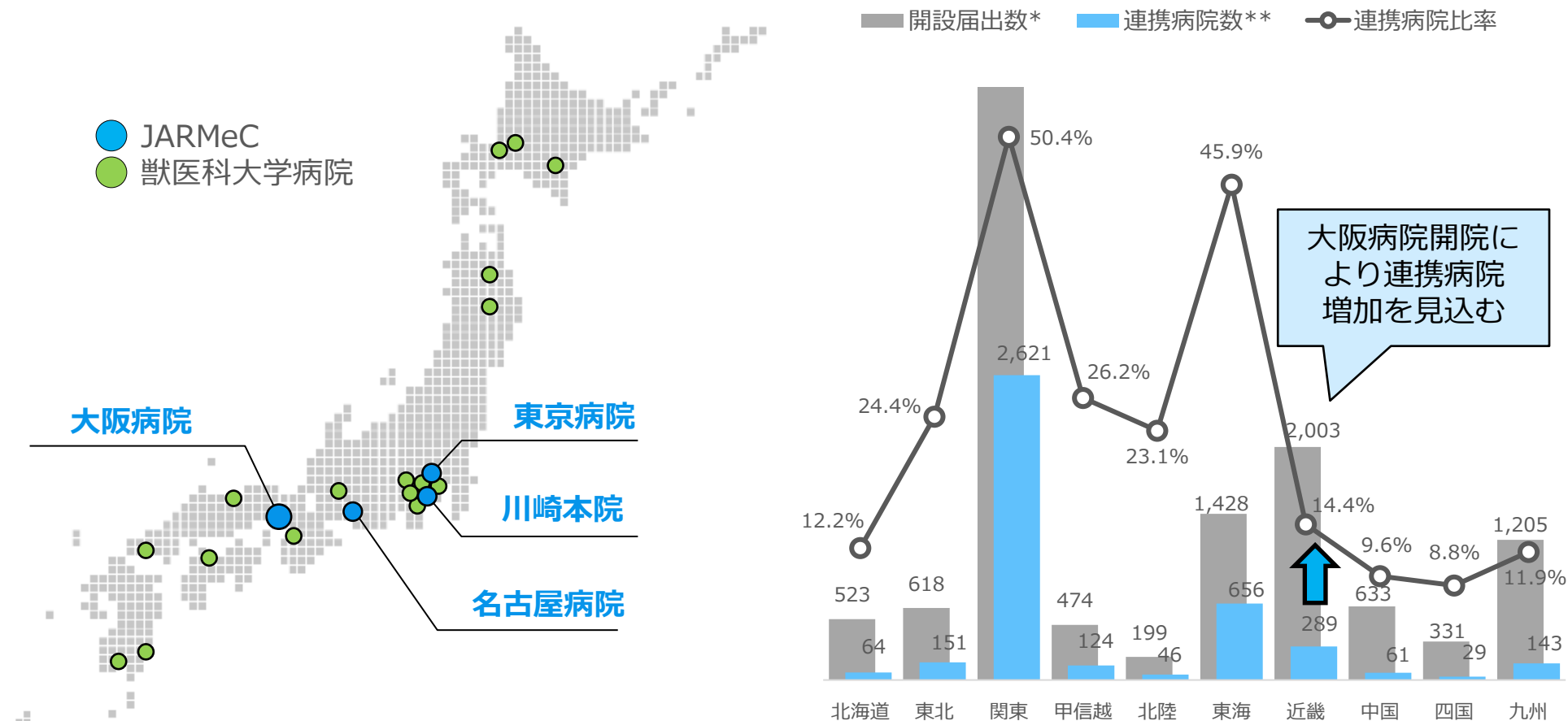
JARMeC  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

## 5. 成長戦略



# 今後の拠点展開

- 大阪病院開院により、関東、東海エリア同様に関西エリアを中心に連携病院比率の引き上げを計画
- 今後も全国主要都市に施設の展開を積極的に推進



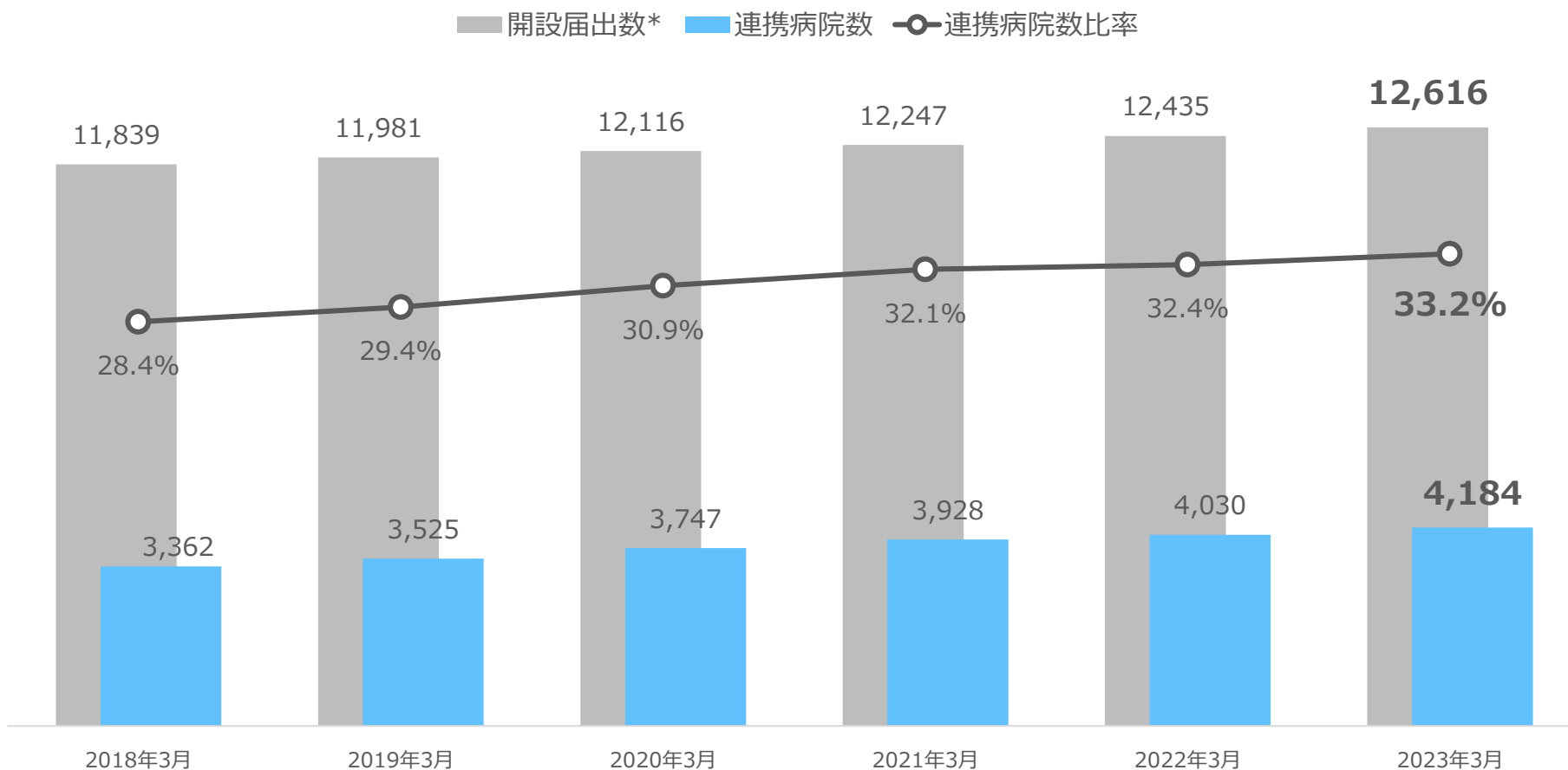
\*開設届出数は農林水産省（令和4年12月末時点の小動物診療施設の件数）

\*\*連携病院数は2023年3月末時点の件数

# 連携病院数は、全国4,184施設に

- 連携病院数は、開設届出数を上回る勢いで年々着実に増加
- 2023年3月末時点で全国4,184施設※と連携し、連携病院数比率は33.2%まで上昇

※2023年5月末時点では4,262施設



\*開設届出数は農林水産省（令和4年12月末時点の小動物診療施設の件数）

# 大阪病院における症例紹介の獲得

- 新規のお客様獲得にむけて営業活動を実施

## 症例紹介の獲得活動

地域の動物病院への宣伝活動



- ・ 院内セミナー・勉強会開催
- ・ 施設見学会開催
- ・ 症例の学会発表



症例紹介



## 当社紹介の理由

- ① 獣医師・看護師の質が高い
- ② 医療設備が優れている
- ③ 診断力・治療技術が高い
- ④ 治療情報の共有・報告が丁寧
- ⑤ 飼い主の満足度が高い
- ⑥ 緊急時の受入れが迅速



# 新設病院の立ち上がり状況

- 大阪病院は市場規模の大きさから12ヶ月での黒字化を見込む

	設備投資額	黒字までの当初計画	結果
<b>1</b> 名古屋病院 (2011年開院)	<b>6億円</b>	<b>24ヶ月</b>	<b>33ヶ月</b>
<b>2</b> 東京病院 (2018年開院)	<b>14億円</b>	<b>9ヶ月</b>	<b>3ヶ月</b>
<b>3</b> 大阪病院 (2023年開院)	<b>22億円</b>	<b>12ヶ月</b>	<b>?ヶ月</b>

# 人材確保

- 拠点拡大の一環として、獣医師や動物看護師などの増員を図る計画  
⇒前期実績：グループ全体の従業員は20名増加
- 優秀な人材確保に向けて、積極的な採用活動を継続

## 人材確保

### 優秀な人材の確保

- 大学・専門学校・各種団体との関係性強化、人脈形成に尽力
- 採用特設サイトを刷新
- その他採用活動を積極的に実施



### 従業員の育成

- 全科ローテーション  
研修プログラムの実施  
(農林水産大臣指定の小動物臨床研修診療施設)
- 症例検討会、各種講習会、  
臨床・病理検討会の活用
- 豊富で多彩な症例と  
手術数/専門診療科による高度医療の習得



## 役割の拡大

### 動物看護師の国家資格化 (愛玩動物看護師)

動物看護師の国家資格化による  
役割の拡大、獣医師の負担軽減

業務の効率化・生産性の向上

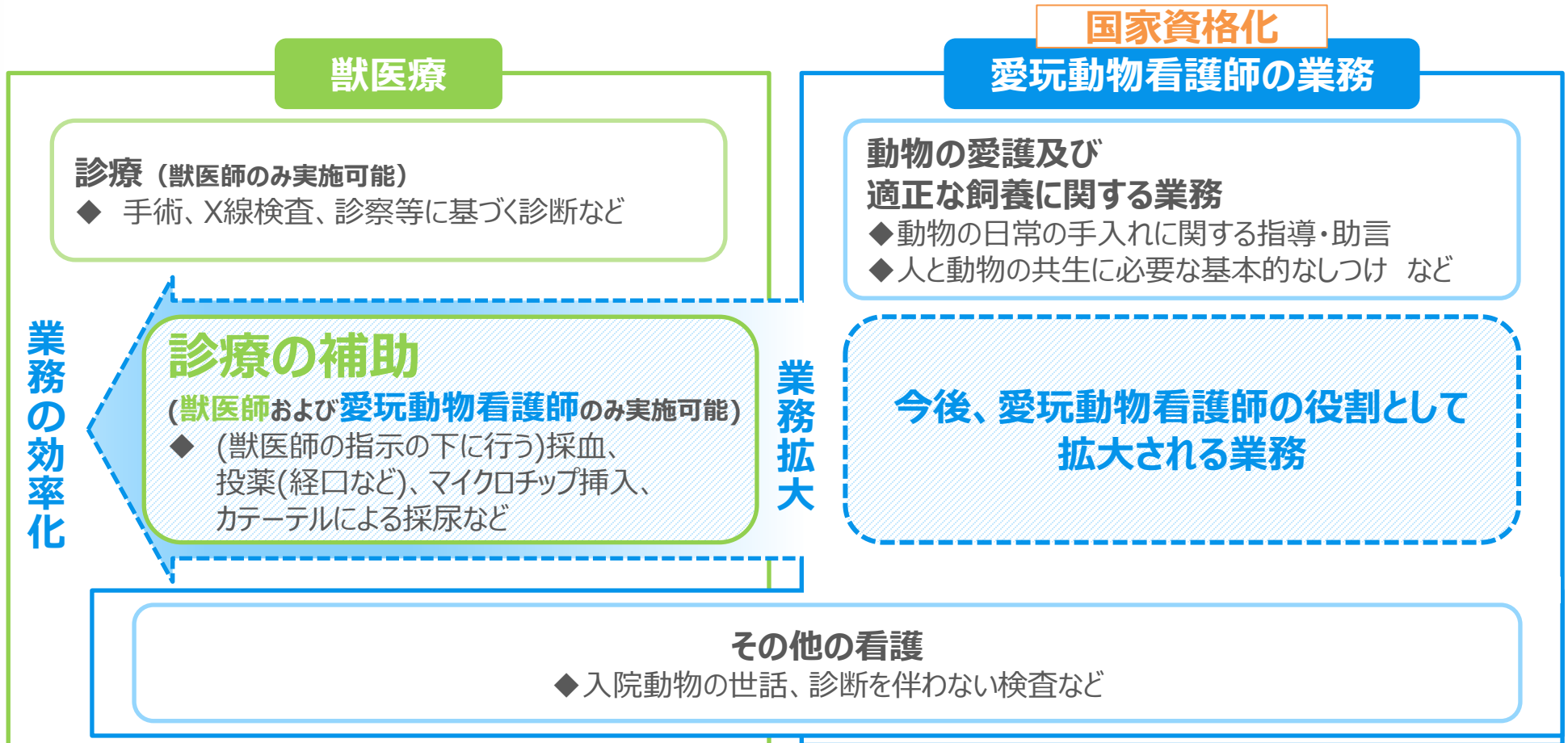


出所：農林水産省/環境省  
新しい国家資格「愛玩動物看護師」ができました！  
(パンフレット)

# 愛玩動物看護師の国家資格化による業務の効率化

- 2019年6月の愛玩動物\*看護師の国家資格化の決定に伴い、愛玩動物看護師の役割の拡大および獣医師の負担軽減に繋がり、業務の効率化や生産性の向上が期待される
- 第1回愛玩動物看護師国家試験は、2023年2月中旬に実施された

\*獣医師法第17条に規定する飼育動物のうち、犬、猫、その他政令で定める動物（オウム科全種、カエデチョウ科全種、アトリ科全種）



## 事業領域の拡大

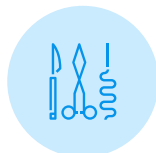
- 患者動物・飼い主に寄り添い、一次診療施設を多方面からサポート



診療外領域においても利便性を高めるシステムやサービスの開発・販売を検討



- 動物医療に関連した事業の買収を積極的に推進



医療機器



保険



ペットフード



医薬品

## 活動量計「プラスサイクル」を使用した取り組み



- 動物の日常の活動量を測定し、動物の「元気」を「可視化」



一次診療施設（動物病院）経由での拡販を目指し、普及促進



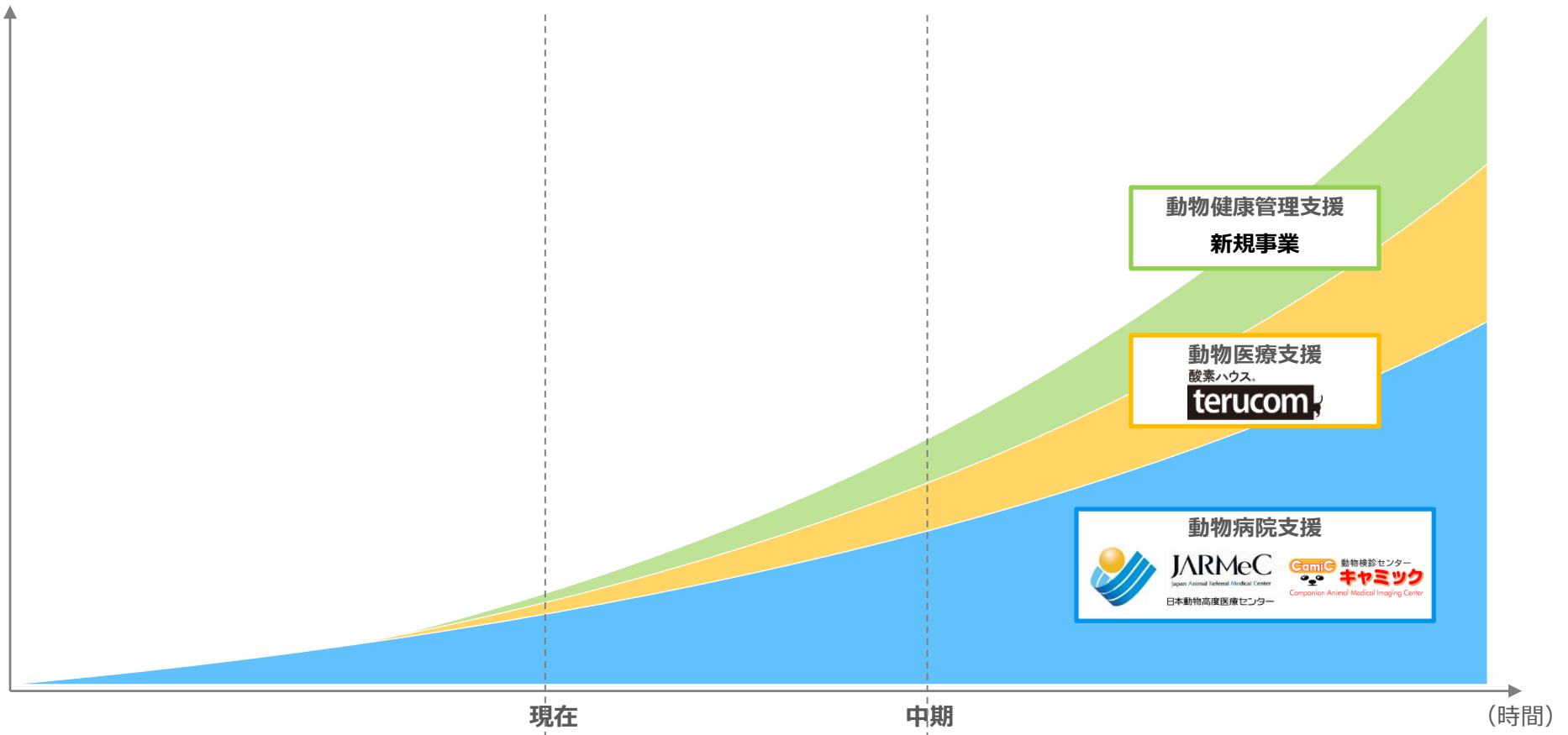
複数の企業との協業を検討中

## 動物医療業界における総合的企業へ

# 中長期成長イメージ

- 短中期では、二次診療動物病院の拠点を全国的に展開しつつ、動物医療に関連する事業買収等の新規事業取り組みにも着手。一次診療施設との連携を強化し、既存事業の拡大を図る
- 長期的には、事業領域を動物の健康管理等多方面に広げ、動物医療業界における総合的企業としての地位確立を目指す

(事業規模)





**JARMeC**  
Japan Animal Referral Medical Center  
日本動物高度医療センター

## 6. リスク情報



# 認識するリスクと対応策（1）

## 認識するリスク

### 事業環境の変化（飼育動物の減少）

飼育動物の頭数は、人口動態、景気動向等の影響を受けると考えられ、一部の調査では近年は減少傾向にあります。飼育頭数が急激に減少した場合には当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### 競合の激化

当社グループの属する動物の二次診療施設の増加により競争が激化し、診療数の減少が進んだ場合等には、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

## リスク対応策、顕在化する可能性等

**顕在化する可能性：中 影響度：高 時期：中長期**

動物の長寿化・高齢化により疾病が多様化していること、ペット保険の加入率が増加傾向にあることから、当社グループが手掛ける「動物の高度医療」に対するニーズは高まっていると認識しております。このようなニーズに応えるべく、拠点の拡大、人材の育成、業務領域の拡大等を図ってまいります。

**顕在化する可能性：低 影響度：中 時期：中長期**

動物の二次診療施設は、人的資源および多額の資金を必要とすることから参入障壁は比較的高いと思われます。当社グループは多くの専門診療科を有する総合診療施設を志向しており、複数の専門診療科の連携によって患者動物に最適な診療サービスを提供することで、他の二次診療施設との差別化を図ってまいります。

（注）認識するリスクについて、有価証券届出書等の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクにつきましては、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。

# 認識するリスクと対応策（2）

## 認識するリスク

### 診療サービスの過誤

当社グループは、提供する動物医療サービスに過誤が生じ、発生した損失に対する責任を追及されるリスクがあります。さらにサービスに過誤が生じたことにより社会的評価が低下し、当社グループのサービスに対するニーズが低下するリスクがあります。このような場合、当社グループの業績に影響を与える可能性があります。

### 人材の確保と育成

当社グループにおいて専門性の高い獣医師をはじめとする優秀な人材の確保、育成及び定着は、今後の業容拡大のための重要課題であります。必要とする人材を採用できない場合、また採用、育成した人材が当社の事業に寄与しなかった場合、あるいは社外に流出した場合には、当社グループの事業展開及び業績に影響を与える可能性があります。

## リスク対応策、顕在化する可能性等

**顕在化する可能性：低 影響度：中 時期：中長期**

当社グループは、提供する動物医療サービスの品質管理に細心の注意を払っております。今後もサービスに携わる人材の教育に努めてまいります。

**顕在化する可能性：中 影響度：中 時期：中長期**

当社グループは、給与・賞与支給水準の向上、福利厚生の充実などの待遇改善に努めてまいります。また、入社する職員に対する研修や、リーダー層となる中堅職員への幹部教育を通じ、将来を担う優秀な人材の育成に努め、社内研修・カンファレンス、症例報告会、学会発表の指導等を通じて役職員間のコミュニケーションを図ることで、定着率の向上を図ってまいります。

(注) 認識するリスクについて、有価証券届出書等の「事業等のリスク」に記載の内容のうち、成長の実現や事業計画の遂行に影響する主要なリスクを抜粋して記載しております。その他のリスクにつきましては、有価証券届出書の「事業等のリスク」をご参照ください。



# 本資料の取扱いについて

- 本資料は、当社の事業内容及び事業戦略に関する情報の提供を目的とするものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘する目的としたものではありません。
- 本資料に含まれる将来の見通しに関する記述等は、現時点における情報に基づき判断したものであり、マクロ経済動向及び市場環境や当社の関連する業界動向、その他内部・外部要因等により変動する可能性があります。
- 従いまして、実際の業績が本資料に掲載されている将来の見通しに関する記述等と異なるリスクや不確実性がありますことを予めご了承ください。なお、業績予想等に変更を与える事象が発生した際には、速やかに適時開示を行っていく方針です。
- 「事業計画及び成長可能性に関する事項」の更新は、今後、本決算発表後に開示を行う予定です。次回の更新は、2024年6月を予定しております。

## ＜お問い合わせ先＞

株式会社日本動物高度医療センター  
管理部 企画課 IR担当  
044-850-1320  
e-mail : ir@jarmec.jp